

# 第4章 資料編

---

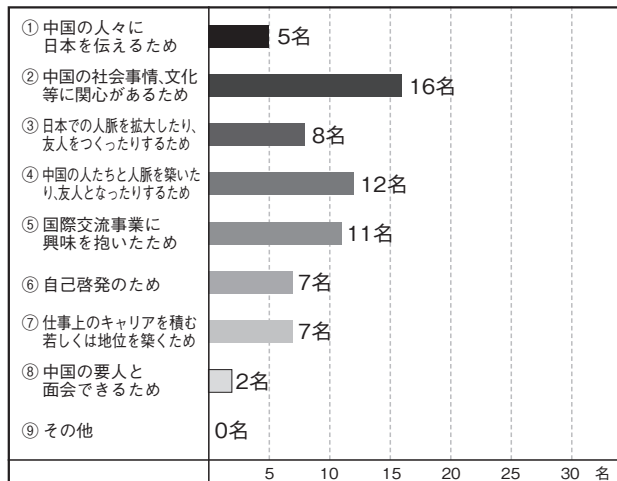
参加青年名簿  
事業評価アンケート  
研修日程  
実績

アンケート対象者：団長、副団長、渉外を除く参加青年20名

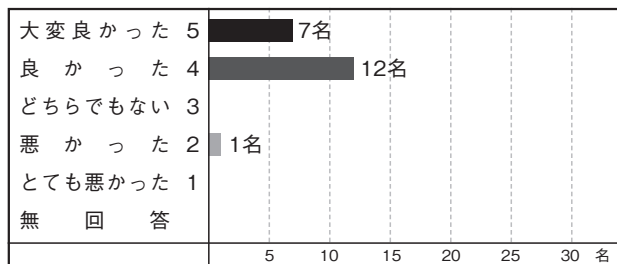
## 1. 全体評価

(1) あなたは、なぜこの事業に参加したのですか。

(複数回答可)

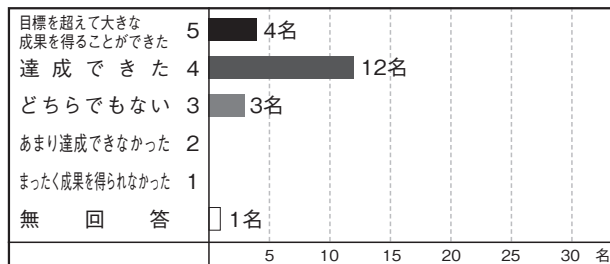


(2) 事業全体をどのように総合評価しますか。



- ・一日一日が充実しており、あっという間に感じたが実り多きものとなった。
- ・中国について見聞を広げることができ、新しい中国の形を知ることができた。
- ・プログラムも内容が幅広く、文化から歴史、先進技術について知ることができ、中国人との交流の場が多かった。
- ・観光では絶対に経験することができない、この事業であったからこそ経験できたことがたくさんあった。
- ・中国滞在中、内閣府が行う青年国際交流事業としての格式を感じることはあったが、「日本青年代表を派遣する」という格式は感じられなかった。

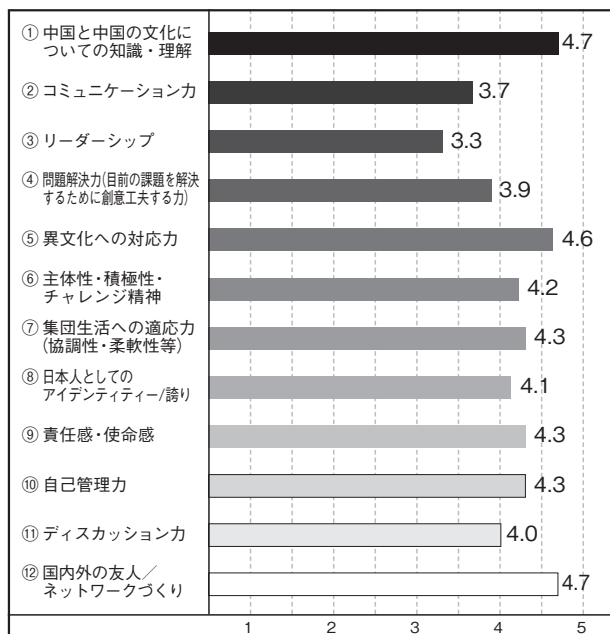
(3) この事業に参加するにあたって、あなたの目標は何でしたか。また、それは達成できましたか。



- ・同じ世代とお互いの考えを話す。
- ・中国の青年たちと交流し、親睦を深め、中国の今について知る。
- ・ありのままの中国を見て、中国を知る。また、中国の方を始め、団員たちとの交流を深め、多くの経験をして自己成長する。
- ・メディアを通じてしか見ることのなかった中国を、実際に訪れることにより、別の面から見て、中国の真の姿を少しでも捉えることができるようにする。

(4) 以下の①～⑫までに掲げる項目に関し、この事業全体を通じて得られた自らの成長等への効果について、以下の5～1のうち、該当すると思われる数字を○で囲んでください。

- (5段階評価) 5：大きな効果があった  
4：効果があった  
3：どちらでもない  
2：あまり効果がなかった  
1：効果がなかった

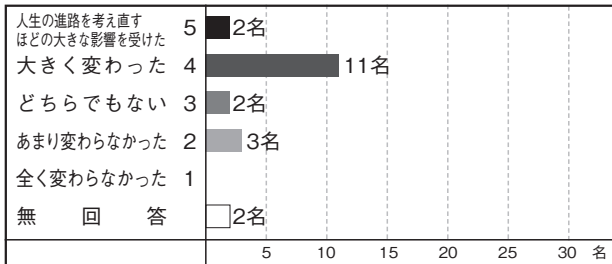


※数値は参加青年20名の平均

(5) 上記(4)に掲げたもの以外で、事業参加によって具体的に得られたものがあれば記入してください。

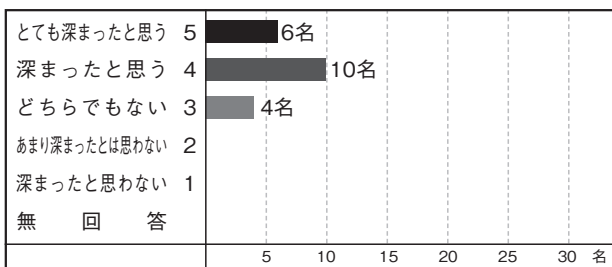
- ・中国側からみた日本の政治体制の見方や、文化、イメージの相違。
- ・対応力、自己発信力。
- ・中国語の向上。

(6) あなたはこの事業への参加を通じて、人生、社会などについての考え方が変わったと思いますか。



- ・より幅広い視野でものごとを考えられるようになった。そして、自分の進路を再度見直そうと思った。
- ・中国人がみな自分の国に対し誇りを持っているように、日本人も自分が日本人であることに誇りを持つようにならなければならないと感じた。
- ・今までは客観的に見ていた日中関係だったが、この事業に参加することによって、より主体的、積極的に日中関係について考え、行動できるようになった。
- ・これまで、失敗を恐れ挑戦してこなかったことが多くあったが、この事業を通じて「やらない後悔よりやった後悔の方が良い」という前向きな姿勢を身につけることができた。

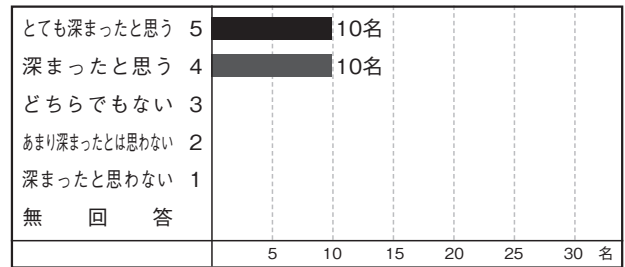
(7) この事業を通じて、あなたと中国の人々との相互理解が深まったと思いますか。



- ・中国の人々が今、何を考えているのかを知ることができた。インターネットや本で知るよりも自分の耳で聞き、目で見るのが相互理解につながると思った。
- ・中国に対しての理解が深まった。お互いの文化等を紹介することによって、お互いの国について知ることができた。
- ・ホームステイ先の両親は、外国人とあまり関わったことがなかったようで、ホームステイを通じて日本人に対する考えが変わったと言っていた。
- ・深まったと思うが一つ一つの交流時間が足りず、質よ

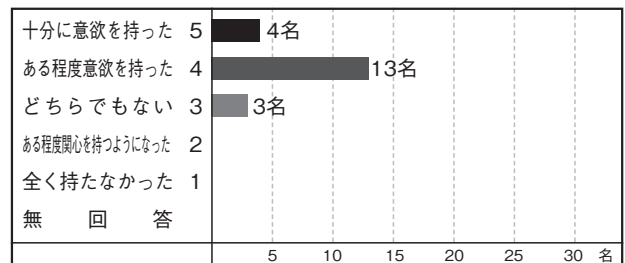
り量となってしまった。

(8) この事業を通じて、あなたと中国の人々との友好が深まったと思いますか。



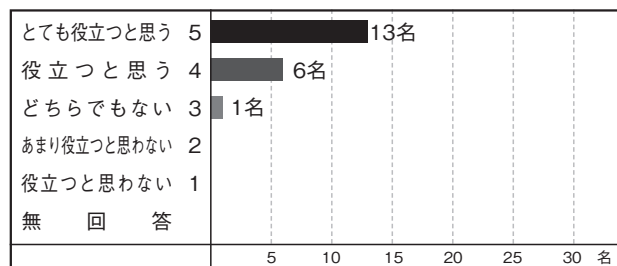
- ・「あなたと出会えて良かった」と言ってくれた友達がいたり、読みかけの本をもらったりと、とても短時間だったが心と心は通じ合えるのだと実感した。
- ・私が思っていた中国人の姿は実際と全然違っていった。日本が大好きな中国人に多く会い、中国に対するイメージが大きく変わるとともに、日中の友好を更に深めることができたのではないと思う。
- ・プログラム後もWeChatなどのアプリでの連絡ができることや、中国側も自分に対して関心を持ってくれた人が多いこと、自分ももっと彼らの価値観に触れたいと思ったことから深まったと判断する。
- ・友好が深まったと思うが、今後も継続的に連絡を続けていくことが重要だと思う。

(9) 事業参加を通じて、社会貢献活動を始めたい、参加したいという意欲等を持ちましたか。



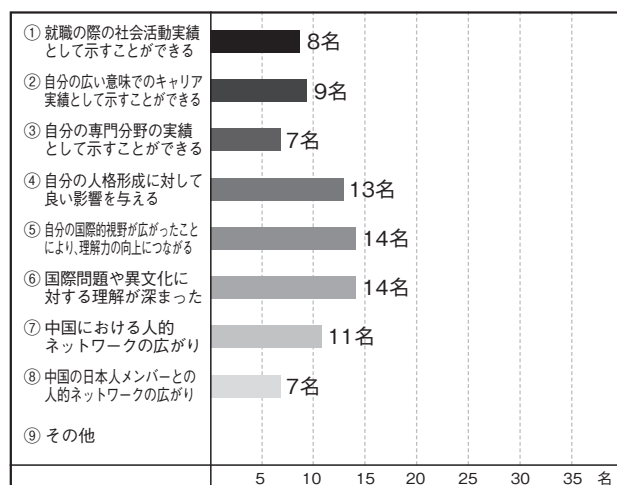
- ・日中の共同発展のため、将来貢献できるようになりたいと思った。
- ・国内・外国問わず、いろいろなボランティアの形があることが分かった。自分にもできそうなことから始めてみたい。
- ・中国青年たちは「ボランティアに参加して当然」と考える人も少なくなかったため、改めて刺激をもらった気がする。
- ・研修を通じて、社会貢献活動を促されるような経験は得られなかった。

(10)－1 この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか。



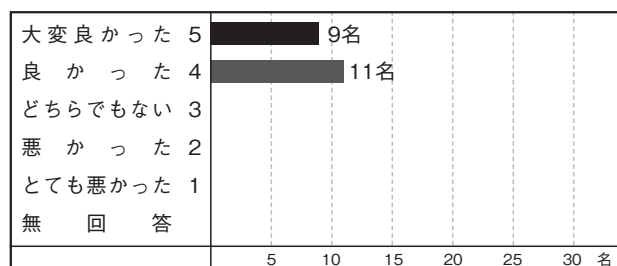
- ・政治・文化・教育・経済と、多様な角度から中国を見られてとても良かった。
- ・中国というこれから一層重要になっていく地域に人脈ができたことで、さらに頑張って中国語をやるというモチベーションが上がった。
- ・自分とは違う考えを持つ団員との出会いと、温かい歓迎をしてくれた中国側のことを一生忘れないと思う。
- ・中国でアドリブ力や対応力を身につけることができた。事前に何をやるかしっかり決めるのもよいが、時間がない中で団結してみんなのアイデアを瞬時にまとめて決行し、対応していく力も身につけることができた。今後役立つと思う。

(10)－2 (10)－1において、5～4を選んだ方は、どのように役立つと考えるか、以下の内容から当てはまる項目を選んでください。(複数回答可)



## 2. 訪問国活動について

(1) 訪問国活動プログラム全体をどのように評価しますか。



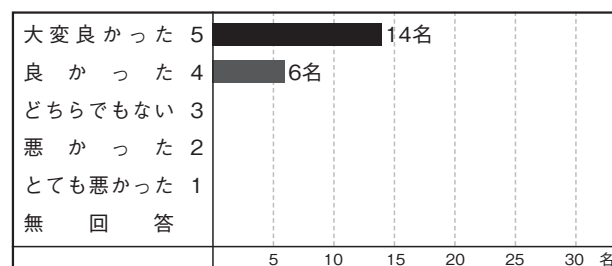
(2) 訪問国活動プログラムから得たこと、発見したことは何ですか。

- ・文化・歴史・産業等、幅広い分野から中国を見て、聞いて、感じる事ができた。
- ・各都市の手厚いサポートのおかげでたくさんのプログラムに参加でき、とても感謝している。
- ・異文化対応能力(食事面など)、人脈拡大、日本代表として活動することによる責任感など、大きなものが得られた。
- ・全体として良かったが、スケジュールがタイトで、後半体調を崩す人が続出した。

(3) 訪問国活動プログラム中、最も印象に残ったのはどのようなことですか。

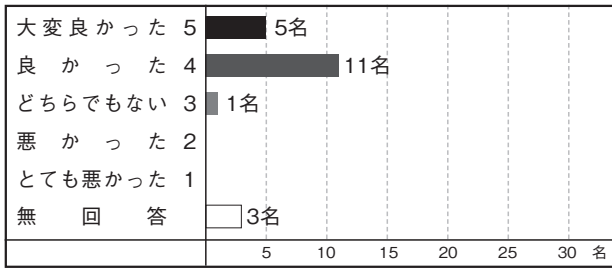
- ・中国は歴史を重んじ、歴史から今があるという主張を強く感じた。また、人のつながりを重要視するため、紹介からつながるネットワークも多かった。
- ・メディアからだけでは分からない、中国政府の本気度、中国歴史・芸術の奥深さ、空間の使い方、人の温かさ。
- ・一帯一路に対する具体的な取組みが、民間レベルにおいても実施されていること。
- ・各都市にいたボランティアの方のホスピタリティー、12日間同行してくれた方のコーディネートする力、通訳としての経験値。また、プレゼンテーションでは良い意味でも悪い意味でも、自分たちをよく見せるという意識を感じ、国民性を感じた。

(4) 地元青年との交流をどのように評価しますか。



- ・各地の中国人と交流したが、どの中国人も純粹で素直だった。もっと交流したかった。
- ・日本青年との交流に意欲的な学生が多く、とても楽しくコミュニケーションできた。
- ・「日本のことを知りたい」という目標で日本語を学んでいる一途さが本当にすてきだった。そして、「最高のもてなしをする」という意識を感じるほど、配慮が本当に良かった。
- ・言葉の壁を越えた交流ができたが、より深い交流のためには言語をもっと学ぶ必要があった。

(5)ー1 施設訪問をどのように評価しますか。



(5)ー2 特に印象に残った訪問先を、印象が強い順に3つ挙げ、理由をお答えください。

<成都ジャイアントパンダ繁殖研究基地>

- ・日中友好の象徴である四川省のパンダを見て、日中関係の重要性を改めて実感した。
- ・パンダ外交という言葉があるくらい、パンダは世界各国で有名であることを知り、また日本とのつながりも見えて、これは平和への重要な手段の一つと感じた。

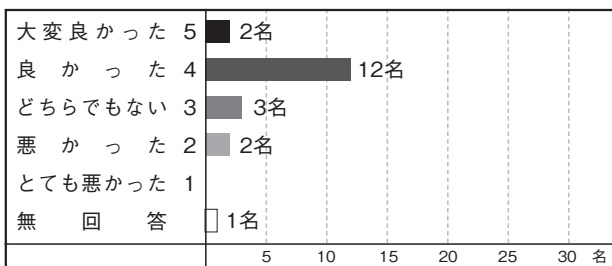
<中国人民抗日戦争記念館>

- ・日中の歴史を中国側から見ることができた。
- ・中国側から見た日本と、教科書で見た事との違いがあり、それもまた、日中の捉え方の違いなのかと思った。
- ・歴史についてももっと勉強しなければいけないと思った。

<北京第二外国語学院>

- ・ディスカッションを通して、日中友好について考えることができた。
- ・自分の意見をはっきりと言うことのできる学生に感心した。
- ・中国人とグループディスカッションができ、非常に勉強になった。

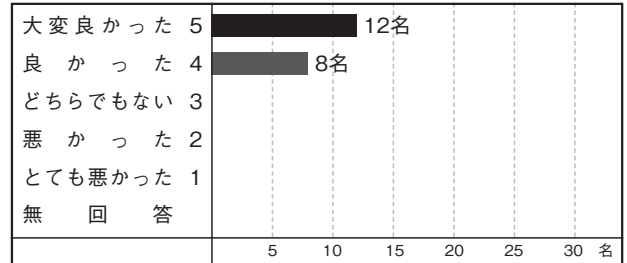
(6) ディスカッションプログラムをどのように評価しますか。



- ・中国青年が日本のどのようなところに興味があるのか知ることができ、ディスカッションを通じて自分の目標を達成することができた。
- ・日本人だけのディスカッションでは分からない部分がたくさんあった。今後も機会があれば外国人とディスカッションをしたい。

- ・中国青年側の考え方の展開や課題解決の参入の仕方が参考になった。
- ・4~5人でのグループディスカッションを想像していたが、実際にはお互いにプレゼンテーションをして終了したので残念だった。

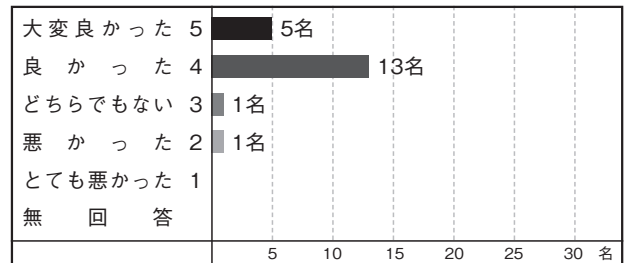
(7) ホームステイをどのように評価しますか。



- ・本当の家族のように扱ってくれ、また、帰るときに「またいつでもおいで」と言ってくれて、心から温かい気持ちになった。
- ・一般家庭にホームステイすることで、実際の中国人の生活が体験できて嬉しかった。また友情が生まれた。
- ・日本語が通じず、不安も大きかったが、家族は非常に親切だったため、有意義な時間を過ごせた。
- ・とても手厚いおもてなしを受け、楽しかった。1泊2日は少し短いと思った。

### 3. 事前・出発前・帰国後研修について

(1) 研修内容をどのように評価しますか。



(2) 研修の良かったところ、改善すべきところをそれぞれお答えください。

<良かったところ>

- ・自分たちが自主的に動けたこと。
- ・専門家による講義は非常に興味深く、勉強になった。
- ・過去の派遣団員からたくさん話が聞けたこと。
- ・自主研修で擦り合わせが甘かった部分も、出発前研修で再確認できた。帰国後研修では、派遣中の内容を振り返ることができ、記憶の定着が強くなった。

<改善すべきところ>

- ・事前研修から出発前までの自主研修期間における情報が少ないように感じ、出発前は不安だった。

- ・出発前研修が2日間というのは、少し長いかなと感じた。間延びしてしまっている感があったので、1日に凝縮するのも良いのではないかと思う。

#### 4. 事業を終了して

##### (1) 今後、この事業の経験をどのようにいかしていきたいですか。

- ・この事業で得た中国への知識や、理解をいかし、中国人の友人を作ったり、中国への良いイメージを広めたりしていきたい。
- ・この研修を自分のものだけで終わりにせず、自分から積極的に自分の見た中国を伝え、少しでも日本と近い国であるということ伝える。自分の中国語の勉強のモチベーションの一つとし、中国人との心での会話を試みる。中国人の向上心を見習い、一帯一路に関する新聞を確認する。
- ・この事業で得た経験をいかして自分のキャリアを選択していきたい。今回の研修で得た最大の気付きは、中国の魅せ方の上手さ、文化と歴史を利用することの上手さを知ったことである。このような中国の面白さを今後もっと知り、それらを自分の周囲へ発信していきたい。今後、中国への留学や、中国企業の起業体験を念頭に入れて、中国との関わり合いを増やしていきたい。
- ・今後、日中友好の架け橋になりたいと感じた。成都では、日本に興味を持っている中国の学生が多くいたが、彼らは日本人と交流したことがあまりないという話を聞いた。このことから、日本についてもっと知ってほしいと思うようになった。これから、日本文化等を学び、海外の人に何か文化を伝えていきたいと感じた。
- ・最初から安心できるコミュニティではなく、多少の緊張感のあるシーンで、今どれだけの力が出せて、何が課題となり得るのが分かってきたため、それを克服し、半年後の就職にいかせるようにしていきたい。そのためには、今後半年間での様々な活動に積極的に参加し、意見を出していこうと思っている。
- ・IYEOに所属し、今後の日中関係がより良いものになるように積極的に活動する。中国に対して関心がない、または良いイメージを持っていない人に対しても、良いイメージを持ってもらえるように少しでも働きかける。来年の3月から北京へ留学に行くため、今回の訪問で出た課題を留学中に解消したい。

##### (2) その他、この事業の感想や事業に対する意見・提言があれば記入してください。

- ・中国派遣に関わった全ての方に、すばらしい派遣活動

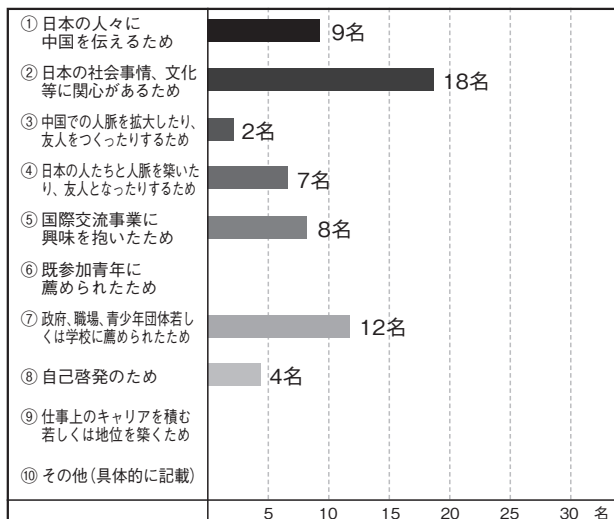
ができたことへの感謝の気持ちを述べたい。ありがとうございました。

- ・これからもこの事業を続けていってほしい。中国団の縦のつながり、他の事業とのつながりも増やしていけたらよいと思う。
- ・この研修は私にとって次の三つの理由から、非常に有意義なものであった。第一に、中国の都市の発展を肌で感じられたこと、第二に一帯一路といった中国の外交政策について考える契機を与えられたこと、第三に現地の人との交流の機会が得られたことである。単なる観光で得られる経験ではない、この研修だからこそ得られた様々なきっかけを、よりいかしていくことで、学びの多い研修であったと胸を張れるよう、今後も精進していきたい。
- ・このような事業に参加させていただいたことを非常に感謝している。現地でディスカッションやプレゼンテーションを突然求められるなど、改善点がなかった訳ではないが、言葉では言い表すことのできない経験をするのができ、本当に良かった。
- ・中国の今と今後を知ることができ、日本の将来を考える良い機会となった。ディスカッションやプレゼンテーションの内容は早い段階で確定できるように中国側に伝えてほしい。

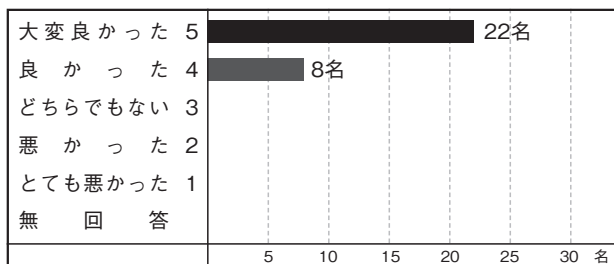
## 1. 全体評価

(1) あなたは、なぜこの事業に参加したのですか。

(複数回答可)

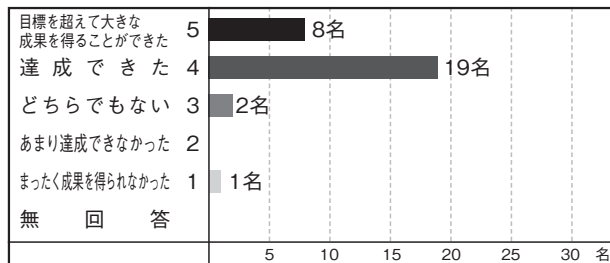


(2) この事業をどのように総合評価しますか。



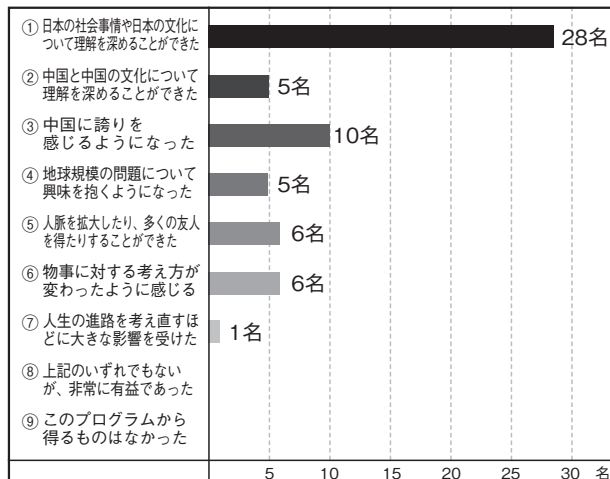
- ・プログラムは豊富かつ多彩で、現地の人々との交流も十分あり、日本の若者の考え方をたくさん知ることができた。
- ・プログラム中に日本青年との交流があり、友情を築くことができた。互いの国の実際の状況について深く理解し合うことができた。
- ・この事業はとても意義がある。今後も継続して実施され、より良いものになることを期待している。
- ・プログラムが多彩で、配慮も行き届いていた。日本の青年との交流が足りないと感じた。今後はもっと青年との交流を多くセッティングしてほしい。
- ・全体的に良かったが、一部の訪問プログラムで深みがなかったと感じた。

(3) あなたが考えた派遣中の具体的な目標は何でしたか。また、それは達成できましたか。



- ・日本社会について理解すること
- ・相互理解を増進し、友人を作ること
- ・日本の先進的な制度と科学技術について理解する。
- ・中国青年と日本青年との間の相違点と共通点について理解する。日本社会の状況と文化を理解する。
- ・両国青年の交流を通して、両国の文化的な相互信頼関係を強化する。中国を宣伝し、日本青年により中国を知ってもらう。
- ・日本企業の経営状況を知るといった目標は達成できなかった。

(4) あなたは、この事業からどのような成果を得ましたか。(複数回答可)

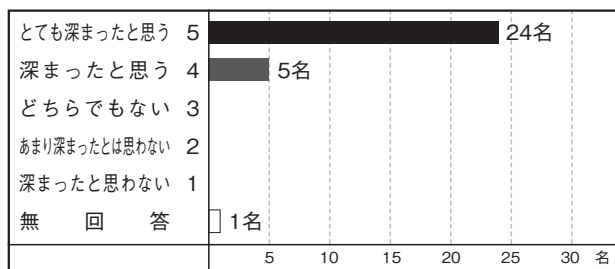


(5) この事業から、(4)で示したものの他に、具体的に得られたことがあれば記述して下さい。

- ・日本には学ぶ価値のある場所が多くある。例えば文明、礼儀作法、文化への自信、環境衛生、国民の素質などが非常に高い。同時に、中国はここ数年急速に発展し、徐々に先進国へと向かっており、誇れると感じている。
- ・運営側の皆さんが心をこめて準備をし、日本青年と私たちの多様な交流を実施してくれ、相互理解がより深

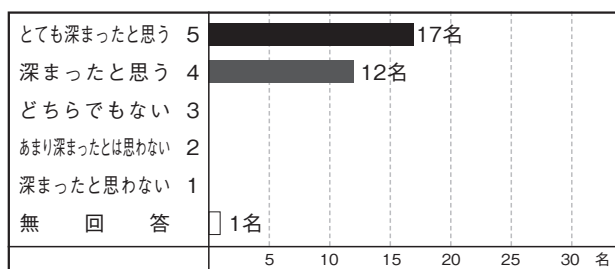
まった。

(6) この事業を通じて、あなたと日本の人々との相互理解が深まったと思いますか。



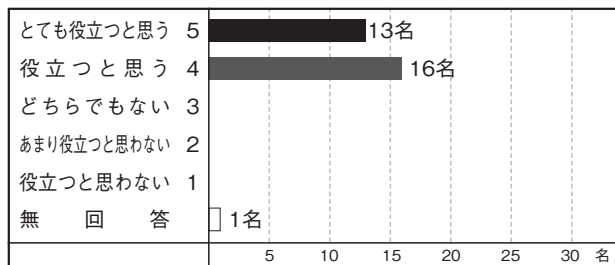
- ・日本青年の生活スタイル、社会の様子、日本国民についてより認識が深まった。
- ・日本の友人及び中国国内各地から集まった優秀な青年代表と同時に友情を築くことができた。
- ・日本で創建された沖縄科学技術大学院大学 (OIST) のやり方に啓発された。

(7) この事業を通じて、あなたと日本の人々との友好が深まったと思いますか。



- ・日本のスタッフは親切で、真摯で、秩序正しいことが深く印象に残っている。
- ・知り合えた人には限りがあったが、日本人という一つの集団については理解できたことが多い。
- ・日本の青年は本当に友好的で熱心だった。いつも私たちの視察に同行し、私たちからの質問に辛抱強く説明をしてくれた。

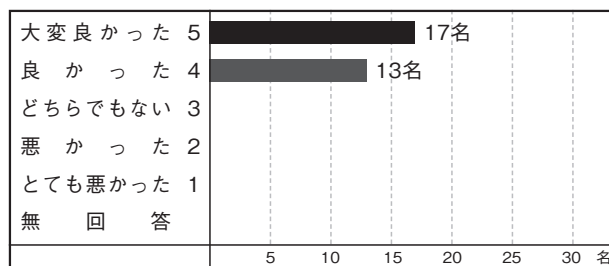
(8) この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか。



- ・視野が広がり、友人ができ、文化交流ができた。
- ・非常に学ぶ意義があり、今後、多くの似たような活動に参加したいと思う。
- ・今回が私にとって最初の海外であり、非常に忘れがたい思い出と貴重な人生の経験となった。

## 2.日本での活動について

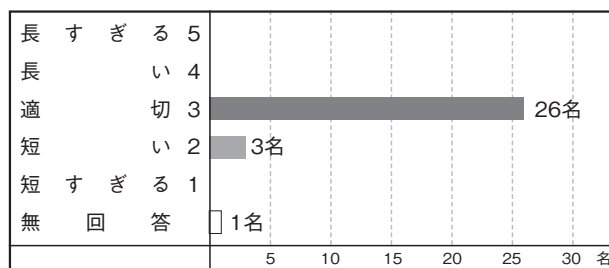
(1) プログラムの内容についての全体評価



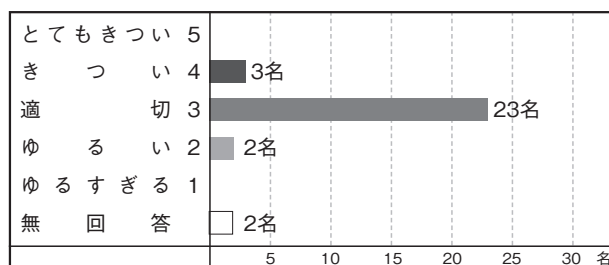
- ・内容は豊富で、政府・歴史・文化・教育など多くの分野を含んでいた。
- ・各プログラム活動の手配はどれも非常に満足している。よく行き届いており、きめ細やかだったと思う。
- ・政治に関する交流があればもっとよかった。

(2) 日程について (3が最も良い評価)

①期間について



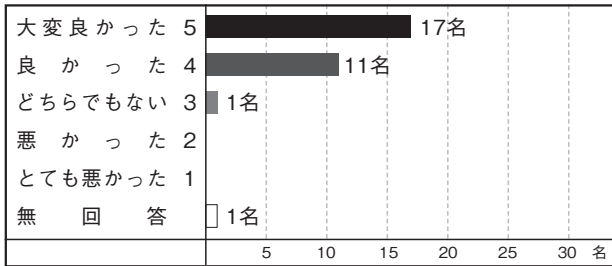
②スケジュールについて



- ・全体的に適当だった。
- ・日本側の準備は細かく行き届いており、団員は日本の社会情勢と文化について様々な角度から体験することができた。同行スタッフは献身的で温かく、友好的だった。
- ・岩手県での震災復興施設見学の際、政府の役人もしくは専門家から見学前に詳細な震災後の復興の施策について紹介してもらえれば、私たちの理解をより深める一助になったと思う。
- ・東京のスケジュールはコンパクトだったが、岩手・沖縄では少し緩く、待ち時間が少し無駄だった。

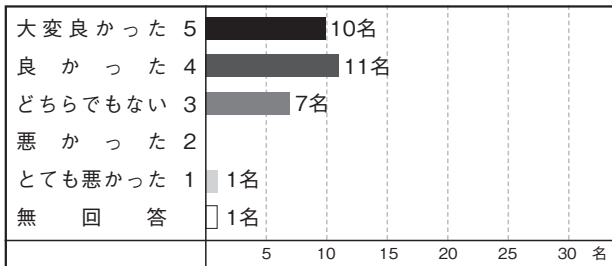


(3) 東京プログラム 裏千家東京道場の訪問について



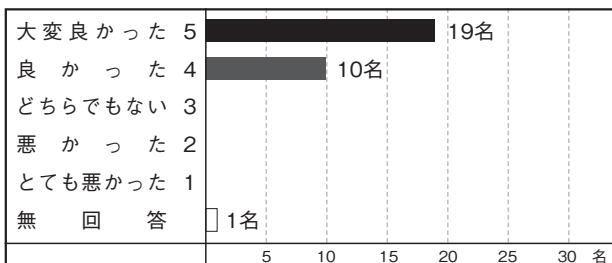
- ・日本における伝統文化の伝承は、学ぶ価値がある。
- ・茶道の魅力、儀式感（緊張感、厳粛さ）などを知ることができた。
- ・日本の伝統文化を理解するのに役立った。視聴覚を通じて得た体験は人に深い印象を与えると思う。中国の茶文化と比べると、共通点が多くあり、また特有な部分もあった。
- ・日本の茶文化は、内容だけでなく、精神的な面から格式まで完璧で、一連の動作がすばらしかった。
- ・交流や質疑応答の時間がもう少し長ければもっとよかった。

(4) 東京プログラム 東京農業大学の訪問について



- ・日本の農業は非常に先進的で、自分たちも学ぶべきだと思った。
- ・教授の方々の講義を通して、日本の精密な農業の現状を知ることができた。
- ・今日の社会にとって非常に重要な研究テーマである。
- ・学生との交流がなく、残念だった。

(5) 岩手県プログラムについて

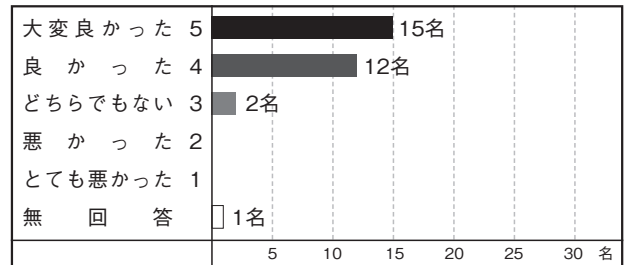


- ・日本の東北地域の復興状況について、より深く理解することができた。
- ・日本人の地震から得た教訓をいかしていく姿勢には驚かされた。
- ・自然災害を目の当たりにした岩手の人々の精神は勇

敢、善良で粘り強く、尊敬に値する。

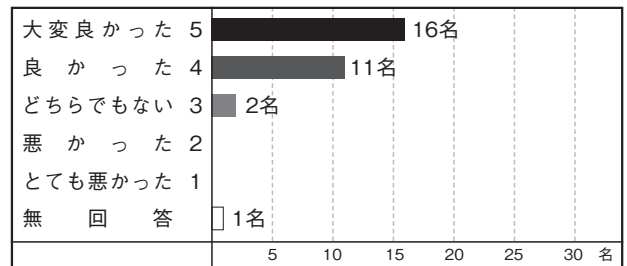
- ・最も印象深かったのは、まさに象徴となった一本松である。
- ・震災に関する情報が各訪問先で若干重複していた。

(6) 東京プログラム TBS訪問について



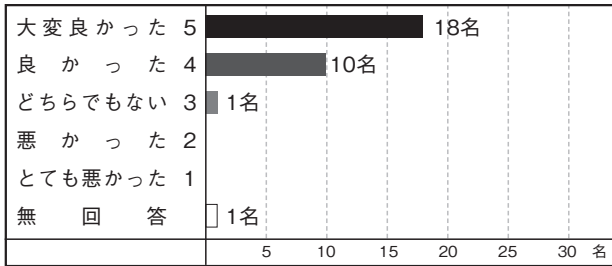
- ・日本での世論などに対するメディアの姿勢が分かった。
- ・メディアの果たす役割は非常に大きい。
- ・TBSはすでに成功しているように見えるが、日本のニューメディアの発展はやや停滞しているように感じた。
- ・局内見学の内容は比較的一般的だった。職員の方との交流の時間がもう少しあればと思った。

(7) 東京プログラム 第40回記念意見交換会について



- ・両国青年の理解とお互いの信頼がより一層深くなり、青年同士の友情がさらに増進した。
- ・日中両国の青年が互いの国について知りたいことを理解し、誠実な交流ができたため友情が深まった。
- ・言葉の面ではギャップがあったが、比較的深い話ができただ。
- ・時間が短く、お互いの言葉が通じなかったため深い交流ができなかった。3～4人のグループでの座談交流にすべきだと思う。
- ・日本青年がもう少し多ければよかった。

(8) 沖縄県プログラムについて



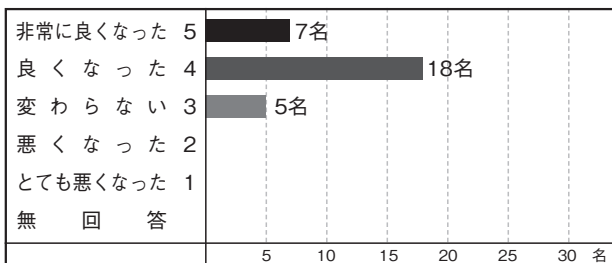
- ・沖縄の歴史について理解を深め、沖縄の自然風景を体感することができた。また、OISTのような高レベルの大学についても知ることができた。
- ・空手レッスンは大変すばらしく、歓送会でのパフォーマンスも非常に良かった。
- ・プログラムが緩いと感じた。もう少し沖縄の歴史や文化、人文について深く知ることのできるプログラムが用意できたのではないと思う。

(9) 訪問国活動中、もっとも印象に残ったのは、どのようなことですか。

- ・日本のきれいさ、日本国民の規律性、社会全体の発達、農村の生活レベルの高さ。
- ・日本人が規則を守ることにより、清潔で整った環境が形成されているのだと思った。礼儀正しさと真摯さが行き届いた生活様式が印象的だった。
- ・日本の友人は細やかで真摯かつ、友好的で温かい姿勢だった。日本の豊富多彩な文化の中には、中国との長い友好的な歴史がある。
- ・日本の環境保護活動は非常にすばらしく、大多数の日本人が友好的で、日本の経済社会の発展においては非常に多くの経験値があり、参考にする価値がある。
- ・日本で最も美しい風景は人だと思う。日本青年の親切さと温かさは私に深い印象を残した。

3. 事業を終了して

(1) この事業に参加して日本に対する印象は変わりましたか。



- ・多くの面で大きく変化した、より日本を知ることができた。
- ・良くなったというより、理解が深まった。
- ・理解がより深く、より具象的になった。時間的な原因により本質的な変化にまでは至っていないが、全体的

には間違いなく良くなった。

(2) 今後、この事業の経験をどのようにいかしていきたいですか。

- ・日本語を自分で学び、日中友好の架け橋となる。
- ・より多くの交流プログラムに参加し、青年文化交流をより拡大させ、青年フォーラムを発展させていく。
- ・自分が日本で見聞きしたことを周囲や学校の青年と共有する。両国青年の架け橋となる役割を担い、より多くの日本青年と中国青年が深い友情を築くサポートをしたい。
- ・文化芸術方面において現在の日本文化をさらに普及させ、伝統と現代とを包括する。
- ・ネットニューメディアを活用し、より多くの中国青年に日本の先進的な経験を広め、伝えていく。
- ・積極的に日本文化と社会事情を広める。日本青年が中国を訪れる際にボランティアとして参加する。

(3) その他、この事業を通じて特に意見・提言があれば記入してください。

- ・歴史に関する体験や見学をするときは、先に内容を紹介していただくとより深く理解できる。
- ・日本の有名企業への訪問と交流をもっと増やしてほしい。
- ・主体的な日本文化の紹介を多くし、交流ディスカッションの回数を増やしてほしい。
- ・もう少し青年交流活動を増やしていただければと思う。例えば座談会や茶話会など。両国青年の交流会の時間を延ばしてほしい。

# 研修日程 平成30年度日本・中国青年親善交流事業（日本青年中国派遣）

## 【事前研修】

研修会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

月日	曜日	7:30	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30	19:00	19:30	20:00	20:30	21:00	21:30	22:00					
7月3日	(火)	第1日目							団長・副団長・渉外会議		参加青年受付 団長・副団長・渉外昼食	開講式	オリエンテーション	個別研修	チェックイン・夕食	訪問国における安全管理及び訪問国活動に関する説明	個別研修	夕食	個別研修	夕食	個別研修	夕食	個別研修	夕食	個別研修	夕食	個別研修	夕食	個別研修	夕食	個別研修	夕食	個別研修	夕食		
7月4日	(水)	第2日目					中国における起業についての講座	副団長・渉外ミーティング	個別研修	昼食	外務省職員による訪問国に関する講義	個別研修	個別研修	個別研修	夕食	夕食	個別研修	夕食	個別研修	夕食	個別研修	夕食	個別研修	夕食	個別研修	夕食	個別研修	夕食	個別研修	夕食	個別研修	夕食	個別研修	夕食		
7月5日	(木)	第3日目				中国の社会事情についての講座	Yミーティング	個別研修	個別研修	昼食	マナー＆プロトコール講座	個別研修	個別研修	個別研修	昼食	夕食	夕食	個別研修	夕食	個別研修	夕食	個別研修	夕食	個別研修	夕食	個別研修	夕食	個別研修	夕食	個別研修	夕食	個別研修	夕食	個別研修	夕食	
7月6日	(金)	第4日目						移動	中国大使館表敬訪問	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動

【出発前研修】

研修会場：(一財)青少年国際交流推進センター会議室

月日	7:30	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30	19:00	19:30	20:00	20:30	21:00	21:30	22:00			
曜日	曜																																
第1日目													受付	オリエンテーション	訪問国活動について	団研修	夕食	団研修 団長・副団長・ 渉外会議	移動 チェックイン														
第2日目				Yミーティング	移動	団研修		壮行会	渡航に関する説明	団研修 係別 ミーティング	夕食																						
第3日目				中国派遣団出発 6:45ホテル発 → 7:20羽田空港着(国際線ターミナル) → 9:05羽田発(NH961)																													

【帰国後研修】

研修会場：都市センターホテル

月日	7:30	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30	19:00	19:30	20:00	20:30	21:00	21:30	22:00	
曜日	曜																														
第1日目																					中国派遣団帰国 15:20成田着(NH948 第1ターミナル) → 16:30成田空港発 → 17:30ホテル着	移動 成田ホテル	夕食								
第2日目				Yミーティング	全体会	団研修 係別 ミーティング		昼食	団研修	団研修 団長・副団長・ 渉外会議	夕食																				
第3日目				チェックアウト	団研修 海外旅行 保険申請	事後活動について	帰国食食懇談会	成果発表	修了証授与(団長など)	修了証授与式																					

内閣府青年国際交流事業報告書2018

# 第40回 日本・中国青年親善交流事業

---

発行：内閣府

〒100-8914

東京都千代田区永田町1-6-1

TEL：03-6257-1436

FAX：03-3581-1609

URL：<https://www.cao.go.jp/koryu/>

編集：一般財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103-0013

東京都中央区日本橋人形町2-35-14 東京海苔会館6階

TEL：03-3249-0767

FAX：03-3639-2436

URL：<http://www.centerye.org/>

印刷：株式会社 長正社